

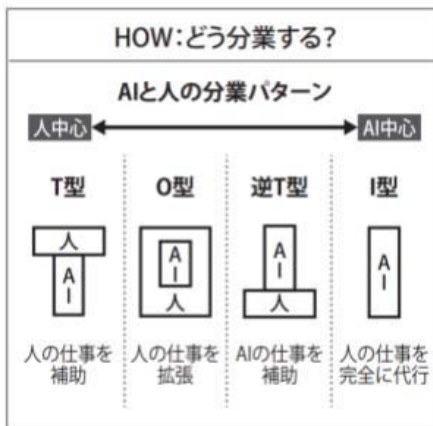


## 「文系 AI 人材になる」を読みました！



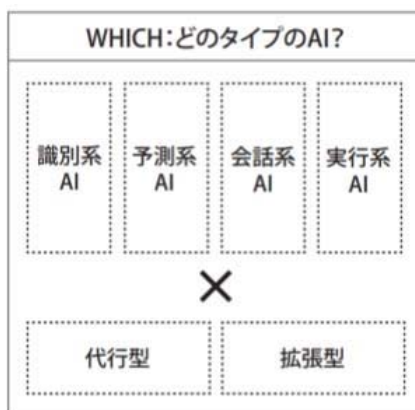
11月に入り、今年も残り少なくなってきました。季節の変わり目なのですが、皆さん、お元気でしょうか。今月は「**文系 AI 人材になる** (東洋経済新報社、¥1,760、野口竜司著)」をご紹介します！

AI プログラムとかシステムを「作る」本は、たくさん出ていますが、「使う」ための本はあまり出回っていません。**本書の帯には「AI は Excel くらい誰もが使うツールへ」というキャッチフレーズがあります。**「AI を使うにはどうすればいいのか」と考えていた僕にとって、このフレーズに惹かれました。本書を読み、理解することで、AI に関する基礎知識を習得できます。内容がたくさんあるのですが、AI のタイプと分業パターンについて簡単に説明しましょう！



まず、AI と人の分業パターンについて触れておきます。左側の図表で、人中心 ←→ AI 中心という形になっています。その中では、4つの分業パターンがあります。**T型は人の仕事を AI が補助すること。O型は、人の仕事を AI が拡張すること。逆T型は、AI の仕事を人が補助すること。そして、I型は、人の仕事を AI が完全に代行すること**になります。

企業の思惑 (コスト削減) のために、僕らの生活シーンにおいて、AI が知らないうちに入りこんでいますし、今後、この流れを止めることはできないでしょうね。



さらに、AI は **機能別に4タイプ (識別系、予測系、会話系、実行系)** があり、**役割別に2タイプ (代行型、拡張型)** に分類されます。識別系は「見て認識すること」。予測系は「考えて予測すること」。会話系は、まさしく「会話すること」。実行系は「物体 (身体) を動かす」ことです。

そして、代行型は「人間ができることを AI が変わって行う」こと。拡張型は「人間ができないことを AI によってできるようにする」ことです。機能別 (4タイプ) に役割別 (2タイプ) を掛けて、8つに分類できます。このように、AI ができることを整理しただけでもスッキリしますね。

大阪万博が開催される頃には、低価格でクオリティの高い AI ツールが販売され、Excel を使うように簡単操作ができるようになっていくでしょうね。うちの事務所でも AI 導入に向けて、本書を参考にしながら動き出します。皆さんの **お仕事でも AI を「使う」こと** を考えてみてはいかがでしょうか！